【令和７年度】公立大学法人秋田県立大学 職業実践力育成プログラムに係る自己点検・評価

＜概要＞

課程名：スマート農業指導士育成プログラム

実施期間：令和７年５月２７日(火)～令和８年３月２５日(水)

受講者数：２４名

修了者数：２３名

評価項目	プログラム実施組織による自己点検・評価	プログラム評価委員会の評価
１．教育課程(プログラム実施状況、カリキュラムの妥当性)	・当プログラムは学校教育法第 105 条に規定する特別の課程に対応し、スマート農業において必要とされる新たな知識・技術・技能を修得した支援・指導人材である「スマート農業指導士」を養成するために必要な学修領域・カリキュラムが配置されている。 ・スマート農業総論、RT（ロボット技術）、ICT・IoT、農業普及の４つの学習領域で構成され、オンデマンドでの動画視聴によるオンライン講義、AIC 施設内での対面講義、企業と連携した AIC 圃場での演習を通じて体系的に知識を修得することができる。 ・オンデマンド講義動画の更新および新規作成を行い、技術革新が急速に進むスマート農業を教育プログラムに反映させている。 更新：スマート農業総論② 農林水産省 大臣官房 政策課技術政策室 課長補佐　本間佳祐　氏 新規：ロボット農機概論④＜可変施肥＞ 農研機構 農業機械研究部門 知能化農機研究領域　研究領域長　林和信　氏 新規：農業環境データ利活用演習 秋田県立大学 システム科学技術学部 経営システム工学科　准教授　松原佳亮　氏 新規：スマート農業普及論④＜PMBOK＞ 秋田県立大学 システム科学技術学部 経営システム工学科　教授　嶋崎真仁　氏 更新：農業用ドローン総論 株式会社池田 アグリサポート事業部スカイテック営業部　課長　米山雅宗　氏 新規：スマート農業における技術要素④＜GNSS＞ 秋田県立大学生物資源科学部 アグリビジネス学科　准教授　山本聡史　氏 新規：スマート農業普及論⑤＜獣害対策＞ 兵庫県立大学　自然・環境科学研究所 教授　山端直人　氏	スマート農業技術の変化に合わせ、カリキュラムやオンライン動画の内容を適宜更新・整理する必要がある。
２．企業、実務家等と連携して行う双方向の授業等、実践性の高い授業の実施状況	・当プログラムは企業、団体等と連携して実践性の高い授業を実施している。履修 68.5 時間のうち 55 時間(約 80%)は、文科省が定める実践性の高い授業に該当している。 ・各講義の最後にアンケートを実施し、受講生からの質問を講師に送り、その回答を全受講生で共有することで、双方向の授業を実現している。また、過年度の質問事項とその回答についても、受講生へ共有している。	組織運営は適切である。
３．教育成果(身に付ける能力を修得したか)	・受講生は、全ての講義・演習を履修し、最終課題（スマート農業普及活動計画）の作成・提出、プレゼンを行った。最終課題のプレゼンは、生物資源科学部・AIC 教員 5 名とシステム科学技術学部教員 1 名が審査を行い、スマート農業指導士として身に付ける能力の修得度合いを評価した。 ・講義・演習の履修状況、最終課題の評価結果をもとに、AIC 教育プログラム委員会において 23 名の修了を認定した。	現状でも取り組まれているが、受講生が適切に視聴を完了するよう、引き続き管理することが重要である。

評価項目	プログラム実施組織による自己点検・評価	プログラム評価委員会の評価
４．受講者支援(学修支援体制、学修支援状況)	・プログラム専属職員は、オンデマンド講義の視聴状況を確認し、視聴が遅れている受講生に対して個別に視聴を促す連絡を行った。また、主担当教員は、最終課題に取り組む受講者が希望した場合は個別指導を行うなど、きめ細やかな学修支援を行った。 ・外部講師による AIC 圃場等での演習の際には、担当教員が外部講師の講義補助を行い、効果的な学習環境づくりに努めた。 ・受講後アンケートで出された質問に対して、後日、外部講師または担当教員より回答し、受講生全員で回答内容を共有している。 ・修了生に対するフォローアップ研修となるスマート農業先進地視察研修を実施した。 石川県先進地視察：修了生 6 名 株式会社あぐりー石（石川県白山市） 株式会社北ファーム（石川県金沢市） （公財）いしかわ農業総合支援機構（石川県金沢市） 栃木県先進地視察：修了生 2 名 アグリステーション誠和（栃木県下野市） 高知県先進地視察：修了生 2 名 Next 次世代型施設園芸農業セミナー2025	フォローアップ研修の視察先を施設ばかりとせず、実際の生産現場を見せるべきである。
５．組織運営(教育組織の適切性・妥当性等)	・運営組織は、外部講師対応や受講生対応などの各種の事務処理などを担当する専属職員を配置し、教育組織への負担を軽減させている。 ・教育組織は、実務経験の豊富な教員を配置し、カリキュラム開発、プログラムの実施、学習の進捗管理が適正に行われた。	組織運営は適切である。
６．施設設備(施設及び設備の整備状況)	・R7 年度も、Wi-Fi 環境、冷暖房環境、スクリーン映写や音響環境が整った研究・管理棟において、講義や演習を行った。 ・必要に応じて演習用ノート PC を受講生全員に貸出し、受講生の利便性の向上を図った。また、AIC 圃場での演習の際は、熱中症対策としてテント設営を適宜実施した。	施設設備は適切である。
７．広報活動(受講生の募集・広報活動)	・受講生募集の際には、大学 HP への情報掲載を行うとともに、秋田県農林水産部、県内市町村農業関係主務課、JA 秋田中央会、JA 全農秋田、県内の単位農協、金融機関、その他関係機関・団体に対する募集要項の郵送等、幅広い周知を行った。 ・地域の農業者や農業団体などによる AIC 見学会、プログラム担当教員による講演や学会報告・論文投稿（5 件）、本学 HP へのプログラム実施内容の掲載（8 件）、SNS での演習動画の公開、新聞・テレビなどメディアへの情報提供により、本プログラムの周知に努めた。 講演　上田賢悦「スマート農業の普及・育成の取組紹介：秋田県立大学スマート農業指導士育成プログラム」IPCSA 研修「技術導入を経営の成果につなげる！スマート農業経営セミナー」 2025 年 12 月 22 日 講演　上田賢悦「スマート農業普及加速化のカギは人材育成である～スマート農業指導士育成プログラム～」令和 7 年度農業農村工学会東北支部総会 2025 年 11 月 6 日 講演　上田賢悦「スマート農業が導く新たな農業・農村と持続可能な食料システム」第 36 回ＪＡ農業機械大展示会 2025 年 6 月 19 日 講演　上田賢悦「スマート農業が導く持続可能な食料システムと秋田県立大学の研究最前線」アグリフェス in 大潟 2025 年 7 月 5 日. 講演　上田賢悦「スマート農業の現場実装を加速化させる支援人材の育成～秋田県立大学スマート農業指導士育成プログラム」秋田県農業法人協会令和８年新春放談会 2026 年 1 月 8 日 講演　西村洋「スマート農業指導士育成プログラムについて」スマート農業推進フォーラム 2025 in 東北 2025 年 12 月 16 日 論文　上田賢悦（2025）「スマート農業支援人材としての普及指導員を育成する必要性(2)-協同農業普及事業の強化と期待(8)」『週刊農林』(2595)：4-5. ・以上の R7 年度の広報活動により、R8 年度も様々な属性からの応募があったことから適切に広報活動が行われ	広報活動について、プログラム独自の SNS アカウントを使用するか、情報量を増やすことを検討するべきである。

評価項目	プログラム実施組織による自己点検・評価	プログラム評価委員会の評価
	ていると評価できる。	
８.企業等の意見を聴くための仕組みの整備	・スマート農業指導士育成プログラム評価委員会を年 1 回開催した。委員会には、企業や県庁、JA などから外部委員を配置した。	本委員会がメール審議での開催となった回もあったが、委員の負担が大きく議論も深まらないため、対面形式（オンライン併用）で行うべきである。
９．社会人が受講しやすい工夫	・当プログラムの総時間の約 55%をオンライン（オンデマンド、一部ライブ配信）で実施し、社会人の受講に配慮した。	社会人が受講しやすい工夫は適切である。
１０.受講生の状況に係る効果検証	・全ての講義・演習において受講後アンケートを実施し、受講者の興味関心や理解度の把握することで、プログラムの改善に活用している。 ・修了生の追跡調査を行い、本プログラムの効果を検証した（上半期調査（対象者 67 名／回答者 51 名）、下半期調査（対象者 67 名／回答者 40 名）。 １）スマート農業研修会・体験会 開催回数 111 回（66 回） 参加者数 1,169 名（877 名） ２）スマート農業技術・サービスに関わる現地実証 実証農家数　202 件（93 件） ３）スマート農業に関する農業者への相談対応 相談件数　169 件（83 件） ４）スマート農業導入支援実績 導入農業者数　66 名（83 名） ＊（　）内は R6 年度実績	受講生の状況に係る効果検証は適切である。